

表 3.1. ユーザ分類表

ユーザグループ例	特別な配慮を必要としないユーザ <sup>1)</sup>	感覚機能				運動機能・体格						認知機能			その他	
		視覚に頼れないユーザ	視力に配慮すべきユーザ	聴覚に頼れないユーザ	聴力に配慮すべきユーザ	車椅子使用者	手が使えないユーザ	動作に配慮すべきユーザ	筋力の弱いユーザ	発話に配慮すべきユーザ	左利きユーザ	小さい/大きいユーザ	初心者/熟練者	理解が苦手なユーザ	日本語/外国語の読めないユーザ	周囲の人/デモグラフィック <sup>2)</sup> /文化
対象者例 :チェック欄 (配慮が必要なユーザ にチェックを入れる)		全盲の人	視力の弱い人	聴覚障害の人	聴力の低下した人	自走できる人	上肢(の一部)が欠損した人	動作制限のある人	子ども	発声障害のある人	左利き	子ども	未経験者	子ども	子ども	周囲の人
		強度の弱視者	色の区別に困難を感じる人 <sup>2)</sup>	騒音環境下にいる人	高齢者 <sup>4)</sup>	介助が必要な人	細かい操作が困難	高齢者	肥満の人	騒音下に居る人	左足利き	肥満の人	初心者	知的障害の人	外国人	法律上の年齢 <sup>5)</sup>
		暗闇環境下にいる人	高齢者 <sup>2)</sup>				マヒのある人	女性			左眼利き	軽い人	熟練者 <sup>5)</sup>	覚える事に努力を必要とする人	日本語しか理解できない人	男性/女性 <sup>7)</sup>
		薄暗い環境下にいる人 <sup>2)</sup>					負傷者	妊婦				寸法の大きい人		習う意欲の低い人		経済的な困難者
情報提示		見えない情報の全体量を前もって知りたい	見えにくい色の弁別が困難 大きい字やハッキリしたコントラストで見たい	聞こえない	聞こえにくい音声案内を明確に聞きたい	視点が低い		見える、聞こえる姿勢が困難			左手操作で見えなくなる	視点が低い/高い	表示の意味がわからない			
		聴覚による伝達 触覚による伝達 点字情報のデザイン <sup>1)</sup>	表示文字の拡大 <sup>12)</sup> 低コントラストの回避 <sup>13)</sup> 十分な照度 <sup>12)</sup> 配色を考慮 <sup>13)</sup> 音声案内	視覚による代替形式(文字等)による伝達		低い視点でも情報取得が可能		どのような姿勢でも情報取得が可能			どちらの手で操作しても表示の邪魔にならない	低い/高い位置でも情報取得が可能	わかりやすい言葉、絵文字の採用			
操作		ボタン・スイッチの位置がわからない	ボタン・スイッチが見づらい 操作部の表示が見えない	音によるフィードバックが得られない		手が届きにくい	両手操作困難 手以外の部位で操作したい	細かい操作が出来ない 姿勢をうまく変えられない	重くて持てない 固くて扱えない	音声入力が困難 言葉による情報伝達が困難	非利き手操作が困難	高く手が届かない 低くて腰曲げ姿勢になる 大きすぎて/小さすぎて使うのが困難	操作の方法がわからない 操作ミスの可能性が大きい 操作が面倒	操作が難しい 操作ミスの可能性が大きい		
		音声入力 操作上の手がかりの設定 <sup>1)</sup> オプション <sup>1)</sup> の活用	大きな操作具 操作上の手がかりの設定 <sup>1)</sup>	視覚、触覚等によるフィードバックの設置		低い位置でも操作が可能 <sup>14)</sup> 軽い操作具	片手で使える 同時操作 <sup>15)</sup> の回避 身体の一部で代行可能 大きな/軽い操作具 オプションやアダプター 自動化	複合動作 <sup>13)</sup> の回避 身体からの着脱が容易 大きな/軽い操作具 オプションやアダプター 自動化	軽量化 軽い操作具 オプションやアダプター 自動化	音声以外の入力/情報伝達方法の確保	左右の手での対応が可能 利き手によらない単純操作	低い/高い位置での操作が可能 オプションやアダプター 自動化	アフォーダンスを考慮 <sup>21)</sup> 分岐の少ない操作フロー 無自覚的な行動への配慮 <sup>13)</sup> ショートカット			
寸法・空間・アプローチ		場所や方向がわからない 盲導犬を連れたい	場所が暗い 場所や方向がわかりにくい	聴導犬を連れたい		段差が通れない 勾配が負担 手や顔を近づけにくい		アプローチが困難 身体のパランスをとりたい				狭い通り抜けが困難 大きすぎる/小さすぎる				
		音声案内 触覚誘導 <sup>11)</sup> 手すり、握り等の設置 盲導犬のアプローチ 可能な空間の設定 段差、突起等の危険を解消	十分な照度 <sup>12)</sup> 表示文字の拡大 音声案内 段差、突起等の危険を解消	聴導犬のアプローチ可能な空間の設定		段差の解消 スロープ設置 <sup>15)</sup> スペース確保 <sup>14)</sup> 車椅子でも通れる通路、開口部の幅 <sup>17)</sup> 介助スペース <sup>17)</sup>	手を使わないと入れない 自動ドア 身体で押して入れる 自動化	手すり、握り等の設置 自動化 無自覚的な行動への配慮 <sup>21)</sup>			余裕のある空間 オプションやアダプター					
理解・判断													情報の意味や操作の方法がわからない 思い違いや操作ミスの可能性が大きい わかりきった操作	情報の意味や操作の方法の理解が難しい		
													すぐわかるガイド わかりやすい用語 メンタルモデルに対応した情報提示 <sup>21)</sup> ショートカット	簡単なガイド やさしいインストラクション		

解説・事例

0	このユーザグループ別を設定しておく、配慮が必要なユーザグループの問題点や要求事項がより浮き彫りになることがある
1	心身機能の差異ではなく社会的差異から見た配慮事項のこと
2	色覚障害、加齢に伴う色覚の変化、低照度等により、色の弁別が困難になることがある 資料 - 1 UDデータ参照
3	照度が低下すると視力も低下する 資料 - 1 UDデータ参照
4	加齢に伴い、特に高音域の聴力の低下度合いが大きくなる 資料 - 1 UDデータ参照
5	丁寧な情報提示や操作方法は、熟練者にとって面倒な場合もある
6	規則で区分された年齢層への配慮、たとえば、未成年者など
7	生物学的な性差ではなく、社会的性差による配慮など
8	例 [点字表示の冒頭に、まず以下に書かれている情報の量や長さを示しておく] (失明者の中で点字の読める人の割合は小さい)
9	例 [テンキーの「5」に凸記号をつける、テレホンカードの手前の端に切れ込みを入れる]
10	突起状のワイヤーが多数平面状にレイアウトされ、その一部が持ち上げることにより触れた手に情報を伝える装置
11	例 [点字ブロック等]
12	照度が低下するほど視力も低下するため、照明環境に合わせて表示文字の大きさを決める必要がある
13	たとえば加齢に伴い、黄/白、青/黒の識別が困難になる(上記2)
14	直立位とれないため、手の届(範囲や視線の高さに制限がある 資料 - 1 UDデータ参照
15	自走できる人にとって、勾配は出来るだけ緩やかにすること。1/12以下といふ基準もあるが、1/12に近いと多くの人が負担
16	膝が入るスペースのこと。たとえば電話台を低くしただけでスペースがなければ正面から電話に近づけない
17	750mm以上確保すること。回転を伴う場合や介助スペースをとる場合はさらに余裕が必要
18	例 [キーボード上でシフトキーを押しながら別のキーを押す、など]
19	例 [ドアノブの開閉操作/ノブを握る動作と捻る操作の複合でドアが開く]
20	ユーザ自身が気づかない、あるいは意図しない動きを生じても大丈夫であること
21	操作や機能を暗示させる形態であること。例えば、ドアに覆れる取っ手が付いていれば、そのドアは引き戸が開き戸であるとわかる
22	ユーザが抱いている操作のイメージや戦略と合致していること、あるいは過去に操作したことのある同種の操作方法と似ていること